
令和4年度 第2回練馬区子ども・子育て会議議事録

[日 時]

令和4年12月20日(火)午後6時30分から午後8時まで

[会 場]

練馬区役所本庁舎20階交流会場

[出席者]

斎藤委員、仙波委員、檜垣委員、吉田委員、小池委員、梅澤委員、田中委員、土田委員、戸田委員、森山委員、小櫃委員、藤岡委員、尾形委員

(事務局)

子ども家庭部長、子ども施策企画課長、子育て支援課長、保育課長、保育計画調整課長、青少年課長、子ども家庭支援センター所長、学務課長、子ども施策担当係長

[欠席者]

鈴木委員、熊谷委員

[傍聴者]

2名

[次第]

- 1 第2期練馬区子ども・子育て支援事業計画の実施状況（令和3年度）について
- 2 第2期練馬区子ども・子育て支援事業計画の中間見直し（素案）について
- 3 保育所整備の進捗状況について
- 4 意見交換【テーマ：「子育てにおいて大切だと思うこと」】
- 5 その他

- 【会 長】 令和4年度第2回練馬区子ども・子育て会議を開催いたします。
本日も前回同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応中であることを考慮して会議を進めます。円滑な会議運営にご協力よろしくお願いいたします。
初めに、配付資料及び委員の出席状況につきまして、報告をお願いいたします。
- 【事務局】 (配布資料の確認)
本日の出席状況について、報告します。本日の出席者は、委員15名中、13名です。
委員過半数の出席を得ておりますので、会議は有効に成立しております。
- 【会 長】 今回、委員の変更がありました。事務局から説明をお願いいたします。
- 【事務局】 このたび、練馬区民生児童委員協議会の役員改選がございました。区条例に基づき教育委員会に意見聴取を行い、新委員に就任していただきました。机上にて委嘱状を交付しています。
- 【会 長】 それでは、一言ご挨拶をお願いいたします。
- 【委 員】 (委員自己紹介)
- 【会 長】 ありがとうございます。それでは、議事に入ります。
初めに、次第1「第2期練馬区子ども・子育て支援事業計画の実施状況（令和3年度）について」です。資料1が出ています。説明をお願いいたします。
- 【事務局】 (資料1の説明)
- 【会 長】 ありがとうございます。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。
- 【委 員】 6ページ(3)3号認定および(4)2号認定について、今後需要が増加する見込みで計画され、達成率も100%を超えている一方で、定員に空きも生じています。これは、空き定員がある園と希望する園とのミスマッチによるものだと思います。そこで全体の利用率がどれくらいかをお聞きします。また、利用率が100%に満たない場合、今後も認可保育所を増設していくのか区の見解をお伺いします。
- 【事務局】 本件は令和2・3年度の実施状況です。令和4年度以降の対応については、後ほど次第3で報告いたします。
直近の保育園の利用状況についてです。これまでの4月時点での保育所空き定員数は、1,100人から1,200人程度でした。今年の4月は待機児童ゼロは達成したものの、保育所の空き定員数は1,744人と例年より500~600人ほど増加しました。ただ、これは申込み数が約600人減少したことによりますので、コロナ等を含めた一時的な状況なのか、今後のトレンドなのかを現在見極めております。11月18日に来年4月の入園申込が終了し、その数を現在集計しています。状況を踏まえ、今後の保育所の整備については、来年度当初予算の中で整理をしてご説明したいと思っております。当然、空き定員が多い状況は望ましいことではありませんので、その辺りは十分に勘案する必要があると考えております。
- 【会 長】 また後ほど、話題になるようです。ほか、いかがでしょうか。
それでは、次第2「第2期練馬区子ども・子育て支援事業計画の中間見直し（素案）について」です。資料の2が出ています。説明をお願いいたします。
- 【事務局】 (資料2の説明)
- 【会 長】 ありがとうございます。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。
私から質問します。26ページの子どもショートステイについて、要支援家庭の利

用が全体の8割と高く、微増傾向です。利用状況を考えると、単発よりは継続的にサポートが必要な人が回数を重ねて利用することもあると思います。そこで、月の利用上限や具体的な利用状況等の現状をお聞きかせください。

【事務局】 子どもショートステイ事業の利用日数の上限は1か月に6泊までとなっています。また、利用される方の約8割が養育に対する不安等を抱えた方々です。ご指摘のように、子どもとの関係に悩み、一時的にお子さんを預けたい、少し離れたたいといったレスパイト目的で、事業を利用したいという方が比較的多い状況です。

加えて、本区では要支援ショートステイ事業を実施しており、要保護児童対策地域協議会の中で支援が必要なご家庭については月に13泊までと日数を増やして支援をしております。これらを組み合わせながら、ご家庭での養育をサポートできるよう支援の充実を図っています。

【会長】 ありがとうございます。家庭の状況によって段階的に運用されていることを聞くことができました。ほか、いかがでしょうか。よろしく申し上げます。

【委員】 30ページの②子どもと家庭の総合相談件数の推移についてです。平成29年度から平成30年度にかけて、育児しつけ等についての相談が約1,600件増加しています。その理由を伺います。

【事務局】 理由について明確なものは持ち合わせておりませんが、現在インターネット上では子育てに関する様々な情報が溢れていること等から心配事をご相談いただく方が増えているのではないかと認識しています。

【会長】 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

私からもう1点質問します。25ページの妊婦健康診査についてです。妊婦の段階からのサポートが出生後のサポートにつながると思います。「特定妊婦」という言葉がありますが、妊婦時の夫婦仲等がその後の養育環境に影響することがあるので、妊婦さんの検査や健診に夫婦そろって関わることができる状況も必要ではないかと考えます。そこで、費用の一部を公費負担するということですが、具体的にどのような負担を行っているのか伺います。

【事務局】 妊婦健康診査については、計画中間見直し（素案）にも記載しましたが、費用の一部を公費負担しています。区としては、母子健康手帳の交付の際に、母と子の保健バッグというものをお渡ししております。その中に妊婦健康診査14回分、超音波検査1回分、がん検診1回分の受診表が入っています。例えば妊婦健康診査受診票の1回目につきましては1万850円が助成されます。

【事務局】 特定妊婦については、私からお答えします。若年の妊婦や、夫婦関係が良好でない場合、そのほかにも出産準備が不十分なお家庭について、保健相談所と連携をしながら対応しております。また、要保護児童対策地域協議会の中に母子保健部会を設置し、保健相談所と連携をしながら、特定妊婦を含めた支援について協議する場を設けています。そのほかにも、保健相談所と子ども家庭支援センターのシステム連携により、情報共有を図っています。

引き続き、保健相談所、母子保健部会と連携しながら、出産前から出産後について安定した養育を行っていただけるよう、切れ目のない支援をしたいと考えています。

【会 長】 ありがとうございます。どうぞ。

【委 員】 先ほどの質問に関して、コロナ禍で第3子を産んだ元妊婦の立場から付け加えます。支援としては手厚いのですが、コロナ禍で各病院によって裁量が委ねられており、社会的要因や困難度にかかわらず、妊婦健康診査では妊婦1人でしか診察室に入れない場合や、立会い出産を認めていない場合などがあります。以前であれば、一緒に来院できた人たちが軒並み来院できていないという現状があり、新型コロナウイルス感染症対策が続いている以上、病院側はそこまで制限の緩和はできていません。コロナ禍において現場と支援との乖離があります。

困難なことに直面している場合や、パートナーや家族とうまく関係を築けていない場合は、出産後に新たな問題に直面するのではないかと危機感を覚えています。

【会 長】 ありがとうございます。

私も、知人から病院によって対応が異なる現状があると伺っています。出産して初めて病院に行くことができた方もいるようです。今後、夫婦への支援や出産後の子育ての支援について、妊娠期から親の意見を丹念に聞いた支援が必要になると感じています。その辺りも施策のほうに生かしていただければと思います。

続きまして次第3「保育所整備の進捗状況」です。資料の3が出ています。事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料3の説明)

【会 長】 ありがとうございます。ご意見、ご質問があればお願いいたします。

【委 員】 先日、令和5年度の園児募集結果についてのアンケートを私立幼稚園協会で集計しました。現在、練馬区内に私立幼稚園が38園あります。そのうちの37園から回答があり、回答率は98%でした。結果は、来年度の応募者が今年度の応募者よりも減少した園が81%でした。また、募集定員に対する充足率が平均67%でした。このような状況で、485人の保育所の定員が増えることに対して疑問があります。

現在、私立幼稚園全園で預かり保育を行っており、9時間から11時間預かり保育を行う園もあります。また、春、夏、冬休みも保育を実施しています。こうした状況にあっても、私立幼稚園の定員充足率が67%しかないということは、危機的な状況です。ぜひ来年度は、これをしっかりとお聞き届けいただきたいと思っています。

そこで、来年度の新設保育園の定員485人の中で、3歳児の定員が合計何人か教えてください。

【事務局】 485名中、3歳児は147名でございます。

【会 長】 ほかにいかがでしょうか。よろしく申し上げます。

【委 員】 私立幼稚園の充足率は67%と見込まれるのにも関わらず、保育所9か所を整備する理由を伺います。

【事務局】 保育所の整備には1年半程度の時間がかかります。今回の令和5年4月の開園に向けては、昨年の夏頃から調整を図ってきました。昨年度は、初めて4月に待機児童ゼロを達成した状況であり、保育ニーズは引き続き増加すると考えていました。今後については、状況を十分に把握した上で、対応することが必要と考えております。

【会 長】 よろしいでしょうか。どうぞ。

【委員】 子どもが12月で2歳になるのですが、3歳まで育休が取れるということで、最初は幼稚園を検討しておりました。しかし、子どもの育ちの状況を見て、早めに集団に入れたほうがよいと考え、4月に保育園の入園を申込みました。子どもの状況によっては3歳まで待てない場合もあると思います。また、そこまで待つには、12月から3月までの数か月をどこかの保育園に入園する、家族で育てる期間がどうしても必要となります。そのような方もいらっしゃるのではないかと思います。

【会長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

【委員】 私どもが運営している学童クラブには児童が71人います。保育園を卒園した子どもの保護者からは、保育園に育ててもらったと伺います。そのような子どもが学童クラブに入会されると、学童クラブで育てて欲しいというようなことを保護者から言われます。幼稚園が教育の場で、保育園はどちらかというと家庭的な場で、様々な面倒を保育園で見てもらっている子どもたちが増えてくる中、保護者が成長しているのかが心配です。

当学童クラブでは、先日、保護者会ができ一緒に子どもを育てようと話をしました。しかし、その中でも預けっぱなしの方がいます。それで子どもはしっかり育つのか不安です。保育園が増えれば学童クラブのニーズも増えます。当学童クラブでも待機児童が発生する状況です。先ほど妊婦の頃から、お母さんの面倒を見るような施策に対する意見が出ましたが、保護者として、子どもと向き合う、子どもと同じ時間を過ごす社会になればいいと思います。

今、学童クラブを運営して私自身は楽しい時間を過ごしています。しかし、こんなすてきな時間を保護者の方たちは見られないことがすごく残念です。保育園を増やせばいいのかが素朴な疑問です。

【会長】 ありがとうございます。どうぞ。

【委員】 区内外で認可・認可外の保育園、幼稚園など利用した経験がある保護者として意見を述べさせていただきます。

まず、保育園か幼稚園かという方向性は正しくないと思います。利用者側からすると、例えば0歳から2歳までは働く親にとって保育園という選択肢が重要になると思います。しかし、3歳になると、こども園含めて様々な選択肢が出てきます。その中で、そのまま同じ保育園に進まずに、別の特色を持った園に転園される方も一定数います。学童クラブについても、様々考えて決めている方もいます。現在、在宅勤務が認められやすくなったため、それと組み合わせる利用可能日を決めるなど、様々な選択肢が年々広がってきていると思います。その中で、少子化により淘汰される園やサービスがあるのかもしれませんが、保護者としては、かなり充実した園選択ができる現状であると思います。

【会長】 ありがとうございます。どうぞ。

【委員】 幼稚園で預かり保育を実施している練馬こども園の整備が進んでいるのにも関わらず、私立認可保育所を新設していきます。そこに予算を充てるのはもったいないと思うので、ぜひとも幼稚園や保育園という垣根にこだわらず既存の施設を有効に使う施策をしてほしいと思います。

【会長】 ほか、いかがでしょうか。いろいろご意見いただければと思います。

【委員】 保育園の園長です。幼稚園の充足率が67%というのは衝撃的でした。私のイメージでは、幼稚園は保育園に比べて、入園や通園にお金がかかるのではないかと思います。それを気にする家庭もあるのかもしれませんが。生活が苦しい家庭が多いので、純粋な選択肢として考えたときに、なるべくお金がかからない保育園を選択するという可能性もあると思います。

確かに保育園を整備するためには1年半以上の時間がかかるので、前々からの準備の結果としての現状だとは分かります。しかし今後のやり方としては、そこにかける予算を、例えば、幼稚園を利用したいが、金銭面で厳しい人に金銭的な支援をするような方法もあるかと思いました。

現在、保育園が子どもをお客様状態で預かっているところが多く、保護者の中でも育ててもらうことが当たり前のように思う方が増えています。保護者の便利なように保育園がサービスをしていることから、今後、学童クラブに対しても同様の要求をするのではないかと心配しています。学童クラブのスタッフは子どもの安全や健康面での責任の負担が大きいです。第一義的には、きちんと保護者が子どもに責任を持ち、学童クラブにあまり負担をかけないような感覚でいてほしいと思います。

今は国の政策が、親子を引き離す政策なので、子どもを産んで育てる喜びがあまりありません。子育ての中で育つ、親の育ちの質が非常に下がっていると思います。今の状況で、ニーズがあるからと保育園等を整備し続けていくと将来が不安です。

私は保育園の園長をしていますが、保育園が頑張れば頑張るほど、子どもは不幸になる気がします。そのため、保護者の便利のために保育園はあるのではないかと入園式で述べます。親として仕事も生活もいろいろ調整しながら、なるべく子どもに向き合う時間をたくさんつくっていきましょうという方向で保育をしています。しかし、特に株式会社の保育園ですと、会社の方針として、保護者の都合に合わせてサービスを良くする傾向があります。何か変わらないと駄目だと感じています。

【会長】 ありがとうございます。とても貴重な意見がたくさん出ていると思います。ほかにいかがでしょうか。

【委員】 私も本当は3歳まで在宅で子育てをしたかったのですが、友達を公園でつくることもできず、妊婦のときはコロナ禍で、ママ友が誰もできずにいました。今練馬に足りないことは、集団の場を得られる場所だと思います。室内で遊べる子は、子育て支援センターやびよびよなどで集団の場を得ることができると思います。しかし、活発な子だとどこへ行っても難しく、習い事をしてコロナ禍で近づけないという状態で最終的な選択として保育園を選んでいきます。保育園に育ててもらいたいと思っている親だけでなく、子どもにとっても集団を考えたときに、選択肢が見当たらなかったという人も一定数います。幼稚園の充足率が67%であれば、空きスペースとして集団の場を得られる場所として活用できる施策があればいいと思います。

0歳から3歳ぐらいまでを対象とし、学童クラブの空きスペース等を活用した週2回程度開催の「にこにこ」事業があると思います。しかし、週2回程度では友達ができませぬ。場所を変えるなど、より戦略的な施策を展開していくほうが、保育園や幼稚園に行かせるよりも、子どもにとって必要なものを提供できるのではないかと考えています。今後そういったことをやっていただければうれしいです。

【会長】 ありがとうございます。どうぞ。

【委員】 当学童クラブでは、にこにこ事業を毎日実施しており、たくさんの方に利用していただいております。幼稚園と併設している学童クラブなので、0歳児から幼稚園帰りの子どもまでが利用しています。外でも遊べますし、そこでコミュニケーションを取って友達を作るような利用の仕方をしている方もいます。コミュニケーションを取ることが苦手な人も、足を運んでいるうちに友達ができて、そのまま併設の幼稚園への入園に繋がると良いと思っております。しかし、その幼稚園の規模が小さいこともあり、保育園に行き転園するのも大変なのでそのまま保育園に通園させるという現状があります。

保育園に預けると楽で初期費用がかからないという面もあります。しかし、制服がある幼稚園に入りたいから転園させるという保護者の方もいらっしゃいました。そこで、保育園と幼稚園が対立するのではなく、お互いの良さを共に考えるべきだと思います。幼稚園も保育園も潤うようにするために、箱ばかり造るのではなく内容や質を考えて欲しいと思います。

学校の先生には学童クラブはやり過ぎと言われ、保護者からは、保育園育ちの子なのでもっとサービスをして欲しいと言われるので、どうしようかなと思いますが、特色を出しながら運営しています。

【会長】 ありがとうございます。次第3について、ご意見をいただいたところです。

本日、次第4「意見交換」にて、子育てにおいて大切だと思うこと、というテーマで皆様からご意見をお聞きする予定でした。既にテーマについてお話しいただいていると思いますので引き続き意見交換をよろしく願いいたします。

【委員】 まず、子ども・子育て支援のための会にもかかわらず、障害児のことが出ていないことが非常に疑問です。

3日ほど前に報道されましたが、国連から日本の特別支援教育を中止すべきという勧告が出ました。つまり、子ども同士を切り離して教育をすることが国連の精神にかなっていないということです。また、5年ほど前は小中学校の生徒の中に、いわゆる障害と認められる子どもが6.5%程度存在すると言われていました。しかし、最近では8.8%程度存在するそうです。この結果に対しては、グレーゾーンの子どものみが障害児に含まれたという可能性もありますが、私は長年多くの障害を持つ子どもを預かってきた実感として、現実的に増えていると感じています。医師の診断書なしでも、療育機関の意見書等があれば障害と認められる子どもになることから、現在、私の幼稚園の在園児の中でも障害を持つ子どもが去年の倍に増えました。

私が本当に危機的な状況だと感じているのは、子どもの障害等が起因して離婚してしまう現状です。今までに5組ほどの離婚を見てきましたが、これは幼稚園に在園中でしたので、卒園してからのことも考えると、随分多い数になるのではないかと思います。なるべく早いうちに、障害についての指導や援助をする機会を作る必要があると思います。現状の2歳児健診では、まだ様子を見ましようとか、まあ大丈夫でしょうと言われ、年長2学期を過ぎた頃になって診断を受けたら、障害の診断が出たというケースが後を絶ちません。少しでも疑いがあったら、公的な施設でなるべく早くから保護者に障害について指導や援助をしていく必要があります。そ

のような施設や機能を区でつくってほしいと思います。

何年か前にもお話ししましたが、ぜひこうした場でもこの重大性を考えていただいて、少しでも多くの子どもたちが幸せに育っていけるように支援をする場をつくっていただきたいです。

【会長】 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。自由に子育てについて大切だと思うことについてご意見いただければと思います。

【委員】 待機児童ゼロを目指す中で、子ども・子育ての需要と急激な保育園の増加がありました。しかし近年、需要が下振れする中で、前から計画してあったので保育園を設置するということになる、場合によっては、保育園等で定員割れが出てくるのではないかと思います。

保育園だけでなく障害の施設等ですが、施設が増加し、人材が追いついていない現状があり、今は人材の質の問題が問われていると思います。世間で様々な問題が出ていますが、立ち止まって質も考えなければ、結局、どこかで後戻りすることになると思います。数を増やすだけではなく職員の質も考えて、研修もしっかり取り入れた人材育成が必要になると思います。

先ほど幼稚園の話が出ましたが、障害を持っている子どもは結構多いと思っています。ただ、このような話は昔からあったと思います。児童養護施設の場合、虐待を受けた子どもが施設に入っている割合は昔は5割を割っていましたが、今は9割を超えています。その中で、発達障害の子は2割から3割です。発達障害の子は虐待を受けやすい傾向があります。保護者も精神的な問題を抱えてしまい、その状況での子育ては非常に厳しく、虐待に発展してしまいます。このような現状があるため、発達障害の子は気をつけて見ていくべきだと思います。また、見守り等の保護者への支援も必要だと思います。こども発達支援センターが中心になるかもしれませんが、しっかりと子ども、親、家族を見る体制を取っていただければと思います。

もう1つ、小学生は学童クラブ等に行きますが、中高生になると行く場所がなくなります。そこで今、中高生の居場所作りに対する需要が出てきているため、しっかりと地域で中高生の居場所づくりができると思います。

【会長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

【委員】 私は、主任児童委員として、10代の特定妊婦に関わっていました。その方は子どもを保育園に入れました。皆様の様々な話を聞いて、私に関わった特定妊婦には、保育園じゃないと無理だったのだろうなと思いました。誰も相談する人がいなかったため、家庭的なところで子どもを育てる必要があったと思います。経済的なことももちろんですが、それ以外にも、お母さん自身がまだ子どもだったため、お母さんを教えてくれる保育士のような存在がいなくて厳しかったと思います。皆さんが特定妊婦について心配をしておりましたが、子ども家庭支援センターの方と協力しながら、そういう家庭にも入り込んで私は支援に入っております。

私は2人の子どもを保育園、学童クラブに入れて子育てをしました。私自身は幼稚園に勤務していたので、幼稚園と保育園の両方の立場から話を聞いていました。皆様の意見を聞いてとても参考になりました。私自身も、この場で皆様に主任児童委員は0歳から18歳までをボランティアで支える活動をしていることを知っても

らい、身近にそういう人がいると紹介していただければありがたいと思います。

【会 長】 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

【委 員】 先ほどお話が出ましたが、特別支援教育のニーズは大きいと思います。また、早期発見、早期療育が非常に大事です。言葉がなかなか出ない子や、1歳を過ぎても歩けない子は様子を見ましよう保健所から言われます。また、保護者もラベリングされる不安から、自分の子どもがその範疇に入っているのかなと思いつつ、認めたくないという心理があります。そのため、早期療育や早期発見は重要だと思います。

最後に、幼稚園、保育園には、専門家の巡回といった福祉サービスがあると思います。質の問題は大きいと思うので、臨床心理士等が巡回していると思いますが、実際にどのようになっているのかをお聞きしたいです。

【事務局】 令和3年度から臨床心理士または発達心理士等が私立保育園を巡回しております。これに加え、区立保育園園長のOBが巡回支援という形で、全ての保育施設を年に1回あるいは2回巡回し、様々な相談等を受け支援をさせていただいています。その中で、障害児の受入れ等も進めていきたいと考えております。

【会 長】 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

【委 員】 私は、出生率を増加させるためには職場で父親になる教育が必要なのではないかと考えます。女性は妊婦を経験し自分の体の変化とともに自覚も持てますが、男性は親になるのが少し出遅れるように思えます。男性が妊娠前から子どものいる生活を望んで、具体的にイメージする機会を社会でつくっていくことで、男性がスムーズに子育てに入れるのではないかと思います。そのために、職場で父親になる可能性のある男性たちが教育を受ける場面があってもよいと思いました。

【会 長】 ありがとうございます。

【委 員】 仕事で社内の方と話をする際、相手が女性というケースが非常に増えています。これは女性の社会進出が進んでいるためだと実感しており、いいことだと思います。一方で、保育園等に子どもを預ける施策にフォーカスされてしまい、本質的な議論に至らないのではないかという心配を再認識しました。前回の会議でもありましたが、子どもは物ではないので、どれだけ親が一緒にいることができるかが心配です。働く女性が増えて少なからず家庭に入る男性もいるのではないかと思います。そうなったときに、先ほど意見があったように、男性側の自覚を促す制度や仕組みが必要なのではないかと思います。

前回の会議でもお話ししましたが、その後2回ほど、知人からこの会議に参加していることについて非常に感謝されたというケースがありました。会話の中で、私は子ども・子育て会議に参加していますという話をしたら、そういう活動をしてる方がいるので非常に助かっているというコメントをいただき、この会議の有意義性を再認識しました。また、このように述べる方は、子ども・子育て会議の開催内容等をよく見ていることに気がつきました。そのため、我々も会議自体のテーマや話題、目標を世の中に合わせてアップデートする必要があると思います。私としては、よく小さい子どもを連れた母親を見るので声をかけて、こういう活動をしていますという話をした上で要望などの聞き取りをしてみようと思っています。

もう1点、来年度のこども家庭庁の予算は4.8兆円ですが、障害児の支援や独り親、ヤングケアラー等に対する予算は1兆円もついていません。残りは、箱物の整理等に一番多くつけられています。練馬区では使い方を見直して、予算の振り替え等を議会に諮ってもいいと思います。区議会だより等も親は見ていると思います。そういったところで議論されることも非常に重要だと思うので、国から落ちてきたものを消化するだけでなく、予算の振り替え等を行う必要があると思います。

【会 長】 ありがとうございます。皆様全員から、有意義なご意見をいただきました。最後に、副会長からもいただければと思いますが、いかがでしょう。

【副 会 長】 皆様、ありがとうございました。全ての意見がこれからの子育てをつくる上で重要な意見だと思います。また、会議に参加していない方の中にもいろいろ考えている方がたくさんいて、そのような方々のお話を聞くことが本当に大事なことだと思います。いろいろな方に耳を傾けていくと、より多くの意見が出ると思います。もっと身近なレベルで区民が話すことができれば、とてもすばらしい意見が出るでしょうし、それを拾い上げることが重要だと思います。

もう一点、量が充足されてきている中、質を考える方向にいかなければならないという点について、私もそのとおりだと思っています。近頃、残念なニュースが聞こえてきますが、この点でも、質について早急に対応していかなければならないと思います。今後、保育施設の定員割れが予想されますが、保育所や幼稚園、こども園、あるいは学童クラブなど、子どもたちが過ごす場所がなくていいということではないと思います。定員に空きが生じたことで、この会議の中でも出たような様々なアイデアが実践できる可能性も私は感じました。質や内容をこれからもっと議論していくことが重要ではないかと、今日の会議で一層感じました。

【会 長】 私からもお話いたします。この会議の意義は区の子ども・子育て支援を担う職員に、委員の皆様の様々な意見を聞いていただいているということが大きいとおっしゃっています。これからさらに知恵を絞って、練馬区のために一生懸命いろいろ考えることを期待しています。

また、妊娠が発覚した時点での夫婦への支援があるといいと思っています。そういう意味で、多様な支援がもっとあるといいと思います。例えば母子手帳をもらったときに、基本的には夫婦で育てていくということや、子どもを預ける中で、親として何ができるかを常に考えるための意識づけも必要だと思います。働く親も仕事から帰った後、親として何ができるのかを考えていけば、子どもにとっては預けられた場所での思い出も、その後の家族と一緒に時間の思い出もしっかり残ると思います。そういう人たちからは、一緒に子育てをしている意識をつくることができるといながら、今日の議論を聞かせてもらいました。

今日はここまでということで閉じたいと思います。皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。